

創立40周年を迎えた全日本漁港建設協会

平成30年度 定時総会・懇親会を開催

（一社）全日本漁港建設協会（以下「協会」と呼ぶ）は、5月10日午後4時30分から浅草ビューホテルにおいて平成30年度定時総会を開催し、総会に先立ち、表彰式が行われ、漁港関係者約100名が参加した。

協会では、平成30年度収支決算、平成30年度事業計画及び収支予算案等が審議され、原案通り承認された。

総会終了後の6時から、同ホテルにおいて約400名の参加を得て懇親会が開催された。

最初に、長野会長から「全日本漁港建設協会は、昭和53年6月に設立された。今年で40周年を迎える。最近の10年間で振り返ると試験の10年間であり、また、これを克服する10年間でもあった。当

第17回漁港関係事業担当者会議開催される

平成30年4月26日（木）、農水省7階講習室において第17回漁港関係事業担当者会議が開催された。

この会議は、全国の災害復興事業関係及び検査関係の担当者を対象に毎年開催されているもので、今年も40都道府県及び関係団体の関係者が約165名参加し開催された。

会議は、災害部門と検査部門（都道府県関係者のみ参加）とに分けて行われ、災害部門の会議では、水産庁漁港整備課、水産庁漁港整備部部長から挨拶があり、その後、水産庁漁港整備部防災課、国土交通省国土政策局、環境省水・大気環境局の担当官による資料に基づ

て締結する「漁港防災協定」について、現在3/4の県で締結済みであり、未締結はほぼ全県にわたる。

I 水産関係施設の災害対策について
 ・水産養殖の報告について
 ・漁港関係施設災害復旧事業の概要と予算について
 ・水産関係公共土木施設

について、資料に基づき詳細な説明が行われた。

II 水産関係施設の災害対策について
 ・水産養殖の報告について
 ・漁港関係施設災害復旧事業の概要と予算について
 ・水産関係公共土木施設

協会には漁港建設業の将来ビジョンを定めており、今後10年間はビジョンに則り、皆様と一緒に輝かしい未来を築きあげていきたい。」と挨拶がこけられた。

最初、長野会長から「全日本漁港建設協会は、昭和53年6月に設立された。今年で40周年を迎える。最近の10年間で振り返ると試験の10年間であり、また、これを克服する10年間でもあった。当

超スマート社会と水産技術で講演

漁港漁場新技術研究会

（一社）漁港漁場新技術研究会は、6月20日（金）に東京都代田区のエッセム本社3階グリーンホール第5回大会を開催し、講演が行われた。

定時総会を開催し、総会終了後に、「超スマート社会と水産技術」方向性で講演会を行った。講演は、水産研究も詳しい水産野や他業種との連携・協

開催案内

（一社）漁港漁場新技術研究会は、6月20日（金）に東京都代田区のエッセム本社3階グリーンホール第5回大会を開催し、講演が行われた。講演は、水産研究も詳しい水産野や他業種との連携・協

び再調査について
 ・災害対策緊急事業推進について
 ・大規模災害時の効率化（簡易型）及び説明会の日程について
 III 海洋ミナ問題への取組について

北海道は、近年、漁業生産が著しく減少しており、裾野の広い水産業の頂点を占めている。この減少を支える漁業や漁村の多面的な機能は、漁民や漁家の健康と豊かな食生活の実現に重要な役割を果している。このことから、漁業を営む漁村を維持していくことは重要な課題であり、このためにも、漁港利用の高度化や沿岸漁業の造成等による漁業生産の確保が必要とされている。

今年度は北海道が命名された「2015年の節目」として、協会として「国や道の施策のより一層の推進」を目的に、これまで以上に強力に取り組みを進めていくこととし、水産庁、北海道、関係機関、関係者等の協力をいただき、協会の発展と活性化を図りたいと考えている。

この中で、橋本会長は、「浜の賑わい」と力を合わせ、賑わいを取り戻せるよう頑張っていきたい」と述べた。



北海道漁港漁場協会が通常総会を開催
 冒頭、高橋会長から、「国の水産政策の推進と、北海道の漁業の発展を図るため、協会として、協会の発展と活性化を図りたいと考えている。」と挨拶があった。

この中で、橋本会長は、「浜の賑わい」と力を合わせ、賑わいを取り戻せるよう頑張っていきたい」と述べた。

作品募集

2018 漁港漁場漁村海岸写真コンクール

（公社）全日本漁港建設協会、（一財）漁港漁場新技術研究会、（一財）漁港漁場新技術研究所、（一財）漁港漁場新技術センター、（一財）漁港漁場新技術センター、（一財）漁港漁場新技術センター

このコンクールは、美しい漁港・漁場・漁村・海岸の風景、海の環境、生物の生態、漁村の暮らし、漁港や漁村での祭り、催しなど、漁民の思いを、写真を通して海や漁業の現状、漁港・漁場の現状、漁民の役割を広く知らせるとともに、水産業・漁村の活性化を促すことを目的として開催される。作品の募集は6月10日から開始する。

このコンクールは、美しい漁港・漁場・漁村・海岸の風景、海の環境、生物の生態、漁村の暮らし、漁港や漁村での祭り、催しなど、漁民の思いを、写真を通して海や漁業の現状、漁港・漁場の現状、漁民の役割を広く知らせるとともに、水産業・漁村の活性化を促すことを目的として開催される。作品の募集は6月10日から開始する。

4月6日（金）
 岩手県農水産部漁港担当技監岩淵和弘氏、同部漁港課主任高橋拓也氏、岩手県漁港漁村協会専務理事大村益男氏
 千葉県農水産部水産部長、佐藤農水産部水産部長
 北海道水産庁水産部長、同部漁港課長相原正樹氏、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長

4月6日（金）
 岩手県農水産部漁港担当技監岩淵和弘氏、同部漁港課主任高橋拓也氏、岩手県漁港漁村協会専務理事大村益男氏
 千葉県農水産部水産部長、佐藤農水産部水産部長
 北海道水産庁水産部長、同部漁港課長相原正樹氏、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長

2018 漁港漁場漁村海岸写真コンクール

作品募集

賞格

- ◆ 入賞作品
- ◆ 特選1席 川農水産大臣賞
- ◆ 特選2席 水産庁長官賞
- ◆ 特選3席 1席（公社）全日本漁港建設協会賞
- ◆ 特選4席 1席（公社）全日本漁港建設協会賞
- ◆ 特選5席 1席（公社）全日本漁港建設協会賞

申込先（問合せ先）
 〒107-0052
 東京都港区赤坂1-9-13
 三益ビル8階
 （公社）全日本漁港建設協会
 漁港漁場新技術研究所
 写真コンクール係
 TEL 03-5511-49081
 E-mail: www.gyokan.or.jp

4月10日（火）
 岩手県農水産部水産部長、三原農水産部水産部長、同部漁港課長相原正樹氏、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長

4月10日（火）
 岩手県農水産部水産部長、三原農水産部水産部長、同部漁港課長相原正樹氏、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長

漁港往来

自4月1日 至4月30日

- 4月21日（水）
 岩手県農水産部水産部長、同部漁港課長相原正樹氏、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長
- 4月24日（火）
 岩手県農水産部水産部長、同部漁港課長相原正樹氏、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長
- 4月25日（水）
 岩手県農水産部水産部長、同部漁港課長相原正樹氏、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長、同部漁港課水産部長